



2020年度春季企画展

History of Otani University

2020年度春季企画展

大谷大学のあゆみ

赤レンガの

History of Otani University

学舎

まなびや

大谷大学のあゆみ 赤レンガの学舎

大谷大学の前身である真宗大谷大学が現在地に移転したのは大正2年(1913)のことです。当時、田園風景が広がっていた小山の地に、赤レンガの本館(現・尋源館)をはじめとする学舎が建てられて以降、仏教を中心とする人文諸学の研究・教育がおこなわれてきました。赤レンガの学舎では、近代的な仏教学研究の道を開いた南条文雄や佐々木月樵、世界に禅と仏教の精神を伝えた鈴木大拙、真宗学を確立して宗教・思想界に大きな影響を与えた曾我量深・金子大栄、さらには囑託教授として京都帝国大学(現・京都大学)の西田幾多郎・上田敏・西谷啓治など学界の錚々たる研究者が教鞭をとり、若き学徒を育成するとともに、世界に仏教の教えを伝え広めること、すなわち「仏教を解放」する役割を果たしてきたのです。



本展覧会では、赤レンガの学舎がこの地に開校された歴史と、大谷大学の源にある建学の精神、学舎を中心に受け継がれたてきた学の伝統を紹介いたします。

上左/正門(1980年頃)
上右/本館 東端階段(1980年頃)
下/尋源館 中央階段(2010年)

次回、夏季企画展の詳細は、大学ホームページ
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/index.html
をご確認ください。

京都・大学ミュージアム連携
大谷大学 University Museum Association of Kyoto

大谷大学博物館

Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町 響流館1F Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/



- 地下鉄丸太線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 市バス「北大路バスターミナル」、「下総町」、「北大路駅前」下車
- 駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。ただし、身障者用の車の場合は事前にご連絡ください。



大谷大学博物館
Otani University Museum

I 真宗大谷大学と赤レンガ

- 真宗大谷大学建築平面図** 1枚

紙本印刷 大正時代 大谷大学博物館蔵

明治44年（1911）東京巢鴨から京都へ戻った真宗大学は、伝統的な教学を研究してきた高倉大学寮と合流し、真宗大谷大学と称して高倉魚棚（下京区）にありました。その後上賀茂村小山の現在地に移転することとなります。本品は「真宗大谷大学」の平面図です。

- 真宗大谷大学本館建面之図** 1枚

紙本印刷 大正時代 大谷大学博物館蔵

本館（現・尋源館）の立面図。ルネサンス様式を基調とする建物で、大正期洋風建築の最古例の一つとして国の登録有形文化財に指定されています。

- 本館屋上塔二十分之一之図** 1枚

紙本印刷 大正時代 大谷大学博物館蔵

本館の屋上に設置された尖塔部分の設計図。本館建面図には描かれておらず、設計が進む過程で追加されたことがわかります。近年の研究では、「ランタン」「頂塔」などと呼ばれ、真理の灯・学の尊さを象徴するものと考えられています。

- 本館上棟式写真** 1葉

モノクロ写真 大正2年（1913） 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

本館（現・尋源館）は、かつては両翼部分も備える堂々とした建築で、南条文雄、佐々木月樵、鈴木大拙、西田幾多郎、上田敏、西谷啓治らの講義が行われ、この本館で学の伝統が築き上げられたのです。



- 講堂建築風景写真** 1葉

モノクロ写真 大正2年（1913） 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

講堂棟の建築風景写真。講堂棟は本館に準ずる形で、ルネサンス様式の建物として外部はセメント・漆喰塗の石目形で建てられました。なお、ここにはお内仏（本尊）などが安置されており和洋折衷のデザインでした。建築費は大阪の実業家で東本願寺門徒でもあった戸田猶七が寄附しました。

- 閲覧室建築風景写真** 1葉

モノクロ写真 大正2年（1913） 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

閲覧室（図書館）の建築風景写真。この当時から、大谷大学には仏教典籍を中心に、和・漢・洋の貴重な原典などが数多く所蔵されており、仏教研究を中心とする学問を支え続けてきました。図書館の建造費は篤信門徒で近代の実業家として著名な岩田惣三郎（1843～1933）が寄附しました。

- 印章**（「真宗大谷大学之印」・「真宗大谷大学図書館之印」）2顆

鑄造篆刻・木製篆刻 大正時代 大谷大学図書館蔵

「真宗大谷大学」時代に、大学と図書館で用いられていた印章。現在も図書館に所蔵される書物には「真宗大谷大学図書館之印」が捺されたものがあります。

- 知進守退碑拓本** 1幅

紙本墨拓 明治34年（1901）：原碑 大谷大学博物館蔵

大谷大学の前身である東京巢鴨の真宗大学に立っていた石碑の拓本。「知進守退」（「進むを知りて、退くを守るを智と曰う」）は中国浄土教の開祖とされる曇鸞の著作『浄土論註』の文で、場所が移ろうとも本来の精神を忘れてはならないという意味があるとされます。

- 真宗大谷大学最後の卒業写真**（大正12年30期生卒業写） 1葉

モノクロ写真 大正12年（1923） 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

明治44年（1911）、東京（真宗大学）から京都に移転した真宗大谷大学は、大正2年（1913）に現在地へ移転しました。そして、大正11年（1922）には大学令に定める大学（旧制大学）として認可され、名称も大谷大学と変わりました。本品は、真宗大谷大学最後の卒業写真です。

- 大正期大学周辺地図** 1葉

紙本印刷 大正11年（1922）：測図 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

現在の校地は移転当時、愛宕郡上賀茂村小山と呼ばれていました。大正時代、周囲は田園地帯であったことがわかります。大学の西側少し離れたところには、京都師範学校がすでにありました。当地移転は、地域住民の方々の多大な理解と協力があって実現したといえます。

II 「大谷大学樹立の精神」と学の系譜

- 佐々木月樵自筆草稿「大谷大学樹立の精神」** 1冊

紙本インク書 大正14年（1925） 大谷大学博物館蔵

大正13年（1924）に第3代学長となった仏教学者の佐々木月樵（1875～1926）は、翌14年の入学宣誓式において、「大谷大学樹立の精神」を告辞しました。大学令に認可されるまでの歩みをたどるとともに、本学の目的を仏教の学界および世界への解放にあると宣言しています。ここに、今に続く建学の理念が示されたのです。

- 南条文雄書簡** 1幅

紙本墨書 大正15年（1926） 大谷大学博物館蔵

京都に戻った真宗大谷大学の運営を担ったのは、第2代学長で仏教学者の南条文雄（1849～1927）でした。東本願寺の留学生として渡英した南条は、インドの言葉であるサンスクリット（梵語）原典にもとづく近代的仏教研究の重要性を学びました。本品はサンスクリット文献邦訳に共に取り組んだ泉芳環（1884～1947）に送った手紙で、追伸部分には『入楞伽經』和訳の校正を案じる思いが記されています。

- 南条文雄墨蹟** 1幅

紙本墨書 昭和時代 大谷大学博物館蔵

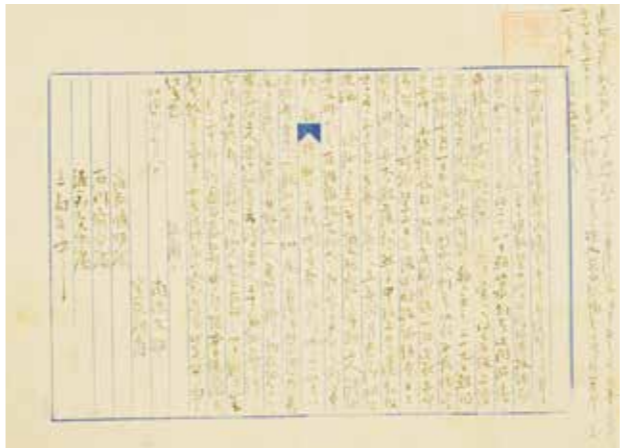
南条文雄の墨蹟。南条は渡航先の情景や、自身の所感を数多く漢詩として遺しています。本品は東京帝国大学教授で中国仏教史の先駆者であった常盤大定（1870～1945）の著書刊行に寄せて贈った詩です。常盤は南条らの支援によって5度中国に渡って仏教史跡を調査しており、その労苦を讃えるものです。

- 南条文雄・笠原研寿書簡** 1巻

紙本墨書 明治9年（1876） 大谷大学博物館蔵

南条文雄は、明治9年（1876）、東本願寺の留学生として同僚の笠原研寿（1852～1883）とともに渡英。そしてマックス＝ミュラーのもとでサンスクリット文献学を学んで、日本における近代的な仏教研究の基礎を打

ち立てました。本品は、明治9年7月8日、スリランカに到着した際に現地での様子を報告したものです。



- 南条文雄校訂自筆原稿『梵文入楞伽經』** 1冊

紙本インク書 明治～大正時代 大谷大学博物館蔵

サンスクリット語で記された南条文雄自筆の『入楞伽經』の原稿。この経典は中期大乘仏教経典の一つで、ランカー島（セイロン島）を訪れた釈迦がラーヴァナ（インドにおける魔王の一人）に教えを説くという内容です。本品はイギリス留学中に南条がロンドンアジア学会所蔵の写本を謄写したものです。

- 南条文雄・泉芳環訳自筆草稿『邦訳梵文入楞伽經』** 3冊

紙本インク書 明治～大正時代 大谷大学博物館蔵

南条文雄・泉芳環の二人が『入楞伽經』を和訳した『邦訳梵文入楞伽經』の自筆原稿。前半を泉、後半を南条が担当したものです。泉は大谷大学の前身である真宗大学で学び、インド・ヨーロッパに留学したのちに大谷大学で教鞭をとりました。

- デーヴァナーガリー文字活字母型** 1式

鑄造 大正8年（1919） 大谷大学博物館蔵

南条文雄の古稀記念出版『梵文入楞伽經』出版のために鑄造されたデーヴァナーガリー文字の活字母型。デーヴァナーガリー文字はインドの文字で、古典語であるサンスクリットの表記などに用いられます。神聖なる都市の文字という意味を持っています。

- 佐々木月樵墨蹟** 1幅

紙本墨書 大正時代 大谷大学博物館蔵

第3代学長佐々木月樵の墨跡。日田の咸宜園で学んだ月樵は、真宗大学卒業後清沢満之の私塾浩々洞設立に加わり、雑誌『精神界』の発刊に尽力しました。大正13年（1924）には大谷大学長となり、「大谷大学樹立の精神」を示しました。「光明遍照十方世界念仏衆生摂取不捨」は『観無量寿經』の文です。

- 佐々木月樵自筆原稿『撰大乘論の対訳研究』** 1冊

紙本インク書 大正時代 大谷大学博物館蔵

佐々木月樵は、大乘仏教経典諸本の比較対照をおこないません。本書はインドの無著が著した唯識論書『撰大乘論』の対訳研究です。佐々木没後の昭和6年（1931）、仏教学者で大谷大学教授の山口益（1895～1976）によって刊行され、『撰大乘論』研究の必須のテキストとなりました。

- 北京版チベット大蔵経** 1筧（359筧のうち）

紙本木版 中国・清時代（18世紀） 大谷大学博物館蔵

チベットで訳された仏典の集成である大蔵経。清代の中国北京で出版されたもので、日本人として3番目にチベットに入った寺本婉雅（1872～1940）によって初めて日本にもたらされました。北京版のカンギュル（仏説の翻訳）とテンギュル（論書の翻訳）がほぼ完全形で残されているものは世界でも少なく大変貴重です。

- 釈迦降魔像** 1軀

銅造鍍金 17～19世紀 大谷大学博物館蔵

釈迦が菩提樹の下で魔を退けて悟りを開いた時の姿をあらわしたチベットの仏像。本品は日本で2番目にチベット入りを果たした真宗大谷派の僧侶・能海寛（1868～1903）がもたらしたものです。

- 夜摩法王像** 1軀

銅造 17～19世紀 大谷大学博物館蔵

夜摩法王とは、サンスクリット語でヤマ・ダルマラージャといい、仏教を守護する神です。ヤマは日本では「閻魔」と呼び冥界の主としてよく知られています。本品も能海寛がもたらしたものです。

- 『救済と自証』** 1冊

紙本印刷 大正11年（1922） 大谷大学図書館蔵

新潟県出身の曾我量深（1875～1971）は京都の真宗大学で学んだのち、東京に移転した同大学で清沢満之に教えを受けました。そして真宗の教えを近代教学として展開し、思想界や信仰の世界に大きな影響を与えました。本書は曾我の主著の一つです。

- 『真宗学序説』** 1冊

紙本印刷 大正12年（1923） 大谷大学図書館蔵

真宗大学で清沢満之の教えを受けた金子大栄（1881～1976）は、それまでの伝統的な宗学から、近代的な「真宗学」を打ち立てました。金子は本書の中で「これからの真宗学というのは、親鸞聖人の著述を研究するのは真宗学でなくして、親鸞聖人の学び方を学ぶのが真宗学である」と語っています。

- 金子大栄自筆原稿** 3枚のうち

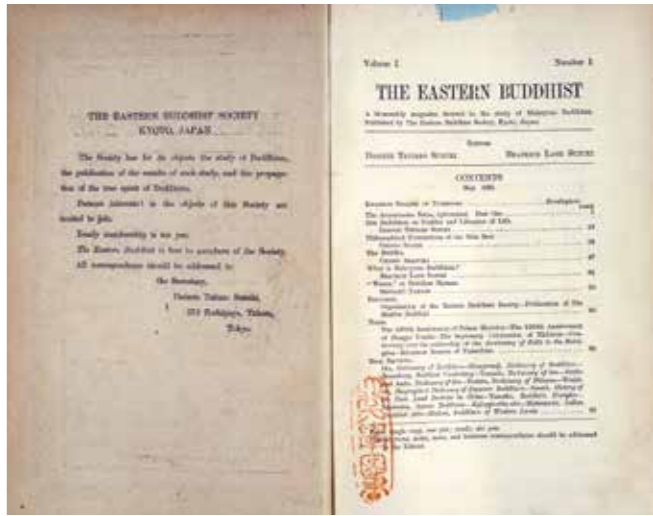
紙本インク書 昭和15年（1940） 大谷大学博物館蔵

金子大栄の自筆原稿。この原稿は金子の『浄土三部経と浄土論の概要』（文栄堂、1963）に収録されています。

- 『The Eastern Buddhist』（創刊号）** 1冊

紙本印刷 大正10年（1921） 大谷大学図書館蔵

哲学者西田幾多郎との縁から、大谷大学に赴任した鈴木大拙（1870～1966）は、世界に禪・仏教の教えを開いた人物です。大正10年（1921）、大谷大学内に東方仏教徒協会（The Eastern Buddhist Society）を設立し、仏教本来の意義を欧米に伝えようとなりました。本品は現在も発刊され続けている雑誌『イースタン・ブディスト』の創刊号です。



- 『漁隱叢話後集』（宋版）** 1冊

紙本木版 中国・南宋時代（12～13世紀） 大谷大学博物館蔵

東洋学者として有名な神田喜一郎（1897～1984）コレクションの一つ。神田は京都帝国大学を卒業後、大正12年（1923）に大谷大学教授として着任、のちには京都国立博物館館長もつとめました。本品は南宋の胡仔が編纂した詩論書で、南宋代の印刷として貴重なものです。